

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000028		
法人名	医療法人 常念会		
事業所名	グループホームもみじ アルプス		
所在地	愛知県豊橋市大村町字山所77番地		
自己評価作成日	平成29年12月20日	評価結果市町村受理日	平成30年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2392000028-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	平成30年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても住み馴れた地域で安心して生活ができる。
地域社会との関りを大切にして、地域のなかでもに歩むグループホームを目指しています。
ご本人に残されている力を活かし、豊かな生活を送っていただけるように。
ご家族とスタッフと地域が一緒になってご本人を支えていける、そんな関係を築いていけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
②軽減要件確認票
③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所内のすぐに目の届く場所に理念が掲示されており、いつでも確認ができるようにしてある スタッフ会議の場でも定期的に振り返る機会を設け全員で理念を共有できるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入しており1年を通して行事で交流する機会がある他、事業所の行事にも地域の方を招くなど地域とのつながりを大切にしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して認知症に関して学ぶ機会を設けており、理解を深めていただけるよう活動に取り組んでいる 学生ボランティアや実習生も積極的に受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族、地域の方、包括支援センターの職員など様々な立場の方が集うなかホームの活動報告を行い、時には地域の問題なども取り上げて、地域のなかのGHであることを目標に建設的な意見交換をする場になっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	報告相談などで日頃より往来する事により信頼関係を築くよう努めている 今年度は市町村担当部署と行事企画を合同で行うなど更なる協力関係の構築に取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わないケアを第一に考え、本人の人権と意思を尊重して行動を制限しないように努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内で定期的な勉強会を開催して学ぶ機会を設けている まずは日頃の言葉使いから見直すことで虐待の防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見制度を利用されている方が入居されている事もあり、スタッフ会議などでも学ぶ機会を設けているが、今後は外部でも制度について学ぶ機会があれば積極的に参加していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には提供するサービスについて十分な時間を設けて説明を行い、疑問点や不安の一つひとつを解消し納得してから契約をしていただけるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、要望を伝え易い信頼関係づくりに努めている他、直接ではなくても市町村担当部署を通す方法や事業所内の意見箱なども活用していただけるように説明をしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃より些細なことでも伝えやすい環境を整え、意見や提案を運営に活かせるよう努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	賞与や永年勤続表彰制度があり職員一人ひとりが勤労に対してやりがいや、向上心を持てるようにしている 職員に対するストレスチェックも定期で実施されており、働きやすい職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJTカリキュラムを活用して職員個々の力量に合わせた人材育成に取り組んでいる 法人内外の研修や勉強会への参加や資格取得支援制度もあり一人ひとりのスキルアップへと繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	事業所は愛知県認知症GH連絡協議会に加盟しており、そのネットワークを活かし研修会や合同の行事計画にも積極的に参加している 他所の事業所と交流することで良い刺激ともなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には家族や関係者から、入居後にも本人から情報を収集して、本当に望む事とは何か、を模索してGHで安心して生活をしていただけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの利用開始前から家族に対して希望や要望や伺い、疑問に感じることについては一つひとつ丁寧な説明を行い、不安を少しでも軽減して信頼関係を構築できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人を取り巻く情報を収集して、その時に最適なサービスを利用することができるように、他のサービスも含め柔軟な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホームでの生活では嬉しいこと楽しいことは一緒に喜び合い、辛い時や悲しい時には側に寄り添い、家族のような共に支え合える関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	安心して穏やかな生活を送っていただく為に、ご家族も一緒になって支えていただけるような信頼関係を築くよう努めている 面会時などの報告の他、担当スタッフからは毎月近況報告を送付して日常の様子などもお伝えしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人が気軽に訪問しやすいように、共にゆっくりと過ごしていただけるような環境をつくるようにしている 季節の手紙なども送付してこれまでの関係を継続できるよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格や身体状況も把握したうえで共同生活のなか作業やレク活動など関わり合いを持ち、お互い助け合う事が出来るような関係性を築けるような支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	GH退居後にもご家族に施設の行事に参加していただけるなど、それまでと変わらない関係を継続していけるようにフォローや相談など丁寧な対応を心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中、何気ない言葉の一つでも本人の真意を汲み取れるよう努めている 職員間で情報を共有してその方のホームでの生活がより充実したものになるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴やサービス利用歴から家族構成まで、様々な情報をチームで共有することでホームでの生活を住み慣れた環境により近づける事ができるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活パターンやその時の身体状況を把握して、無理なく快適に過ごしていただけるような支援を心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人を取り巻く家族、職員などがチームとして機能するよう細かなコミュニケーションがとれるよう努めている 担当者がモニタリングを行い課題とケアの在り方についてサービス担当者会議で話し合い介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活の記録を残すこと、定期的なカンファレンスではケアの方法の検証、見直しを行うこと、様々な情報を共有することで一人ひとりの介護計画が、より充実したものになるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	少人数によるGHだからできる事を考えて、本人や家族が望む事には可能な限り対応する事を心掛け、多くの希望を実現できるように柔軟な支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域住民、町内会、地元の学校、近隣の店舗など様々な地域資源を有効に活用して、地域社会との関りを継続することでホームでの生活がより豊かなものになるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	専門分野の異なる4つの協力医療機関の中からその方の健康状態(既往歴、現病)に合わせて主治医を決定して最適な医療が受けられるように支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	GHに配置されている看護師とは勿論、併設された老健の看護師とも協力体制が築けており緊急時だけでなく日頃から入居者の適切な健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーのやり取りで病院関係者と情報の共有を行い、その後は定期で訪問や連絡を取り合い早期で退院できるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	相談時や契約時より終末期について話し合う機会を設け、入居後にもその都度本人や家族の意向や希望を伺うように努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応方法について定期的に振り返る機会を設けており全職員が同じように行動できるようにしている 法人内でAEDの使用方法についての勉強会も定期的に関催されておりスキルアップに繋げている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法人で災害対策委員会が設置されており施設内設備や備蓄品の見直しを定期的に行っている 年に2回利用者も参加する防災訓練も開催されている 運営推進会議では地域の防災状況について話し合う事で協力体制を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者一人ひとりの人権を尊重して尊敬する気持ちを忘れず、その方に合った言葉かけをするよう心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃より傾聴することを大切にして本人の意思や希望を汲み取れるよう努めている 自分から伝えることが困難な方に対しても表情やふとした言動などから思いを汲み取ることで自己決定ができるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	生活のなかでは無理強いしないようにして一人ひとりがそれぞれのペースで穏やかに過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服装を職員と一緒に選んだり、アクセサリーを身に付けたり、化粧をするなど日常の中でもお洒落を楽しめるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者も一緒に食事作りに参加するなど準備の段階から楽しみを持っていただけるようにしている 食事の形態にも配慮をいつでもでも食べることを楽しみに感じていただけるような支援に努めている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の食事や水分の摂取量を記録に残し、一人ひとりに合った量を摂取できているか確認を行っている 本人の状態によっては量や形態の見直しも行い必要な摂取量を確保できるよう支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行っている他、定期的に歯科衛生士による口腔ケア指導を受けており、必要に応じて歯科受診もして健やかな生活が送れるよう支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	チェック表を活用して個々の排泄パターンを把握したうえで声掛けや介助を行い、自尊心を傷つけないよう配慮をした支援を心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々のその時の状態や過去の既往歴なども把握したうえで、食事や運動による予防、改善を第一に、場合によって医師より処方された内服薬を使用してその方に合った排便コントロールに努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴を好まれる方もそうでない方もいるが、無理強いすることなく本人のペースに合わせた上で、清潔が保てるよう個々に沿った支援に努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	それぞれの生活リズムを尊重して体調の変化なども観察することで、なるべく負担が少なくホームで生活が送れるよう安眠や休息する時間を大切にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報を職員間で共有して効果や副作用についても理解するようにしている 状態の変化には気を配り、薬剤師、看護師、主治医と協力しながら一人ひとりの健康管理に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事活動やレクリエーションを通してその人なりの役割や楽しみを感じていただけるようにしている 塗り絵、折り紙、習字、卓球、美容院、お墓参り、ドライブ、宝くじの購入、など多岐に渡り支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域社会との関わりを継続するためにも本人だけでなく家族の希望も伺いながら可能な限りの支援に努めており、職員や周りの方たちが一緒にサポートする事でいきたい場所へ行けるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の希望に応じて外出や買い物をする機会があり、好みの嗜好品を購入したり趣味娯楽に使用する機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個人で携帯電話を持ち込まれ使用されている方もいる他、事業所の電話を取り次ぐなど好きな時にいつでも連絡ができるように支援している 季節の便りのやり取りも継続できるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間では家具や座席の配置に配慮をする他、季節に応じた飾り付けをすることでそれぞれが居心地よく過ごせるようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間では食卓の自席やソファ、時には事務室やキッチンなど一人ひとりが好みの場所で落ち着いてすごしていただけるようにしている 食事も気の合う方と一緒に楽しめるよう座席などにも配慮がされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にもそれぞれの好みに合わせ慣れ親しんだ家具類を使用して、くつろいですごしていただけるようにしている 仏壇を持ちこまれてお参りを日課とされている方もいる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	案内図を掲示するなど事業所内の導線はなるべく分かりやすくする事と安全であることを心掛けており、それぞれが自立して迷いなく行動ができるように努めている		